

日時/会場	題目	座長および話題提供者
【研01】 9月10日(水) 16:10-18:10  研-A会場 A200	<b>国際リニアコライダー計画実現に向けた新しい展開</b> 岩盤力学委員会	座長 西脇芳文 東電設計㈱ 話題提供者 鈴木厚人 高エネルギー加速器研究機構
【研02】 9月10日(水) 16:10-18:10  研-B会場 B200	<b>水理・水文学解析ソフトウェア統合型共通基盤の発展に向けて</b> 水工学委員会	座長 山田 正 中央大学 話題提供者 大平一典 国土交通省 五道仁実 国土交通省 椎葉充晴 京都大学 佐藤宏明 (財)河川情報センター 高木茂知 ハソフィックコンサルタンツ㈱ 青木純一 (株)日立製作所
【研03】 9月10日(水) 16:10-18:10  研-C会場 C200	<b>土木界からの地球温暖化対策への貢献</b> 地球環境委員会、地球温暖化対策特別委員会	座長 松岡 譲 京都大学 話題提供者 石井弓夫 (株)建設技術研究所 三村信男 茨城大学 花木啓祐 東京大学 沖 大幹 東京大学
【研04】 9月10日(水) 16:10-18:10  II-1会場 B101	<b>コンピュータは橋を変えるか</b> 鋼構造委員会	座長 館石和雄 名古屋大学 話題提供者 山口栄輝 九州工業大学 小西拓洋 (財)首都高速道路技術センター 野中哲也 (株)地震工学研究開発センター 杉山俊幸 山梨大学 増田陳紀 武蔵工業大学
【研05】 9月10日(水) 16:10-18:10  II-2会場 B102	<b>FRPがつくる新たな複合構造</b> 複合構造委員会	座長 上田多門 北海道大学 話題提供者 細沼宏之 石川県 小林 朗 日鉄コンボジット㈱ 睦好宏史 埼玉大学 西崎 到 (独)土木研究所 杉浦邦征 京都大学 山藤家嗣 三菱レイヨン(株)
【研06】 9月10日(水) 16:10-18:10  II-3会場 B103	<b>美しい国づくり政策大綱にもとづく公共事業の展開 -東北地方における取り組み-</b> 景観・デザイン委員会	座長 篠原 修 政策研究大学院大学 話題提供者 阿部幸雄 国土交通省 伊藤友良 国土交通省 畑山義人 ドーコン 平野勝也 東北大学
		平成15年、国土交通省は「美しい国づくり政策大綱」において15の具体的施策を提示した。その筆頭が「事業における景観形成の原則化」である。東北地方では、東北地方整備局が「大綱」以前から景観アドバイザー制度を発足させ、管内における公共事業の重要と思われる案件についてはデザインを協議する環境を整えてきた。「大綱」以後もその努力は継続され、数多くの実績を積み上げている。また、近年では事後評価に関わる調査も開始している。ここでは、景観アドバイザーや整備局の運営担当者らと交え、景観形成にかかわる努力とその成果を振り返り、あわせて、将来に向けた課題について意見交換する。

日時/会場	題目	座長および話題提供者
【研07】 9月10日(水) 16:10-18:10  II-4会場 B104	市民にとって良いインフラとそれを支える技術・技術者システム  コンクリート委員会	座長 河野広隆 京都大学 話題提供者 小原左武生 仙台市民 岩城一郎 日本大学 横田 弘 (独)港湾空港技術研究所 丸屋 剛 大成建設 保田敬一 (株)ニュージェック
【研08】 9月10日(水) 16:10-18:10  CS-1会場 B201	土木工学分野ではEディフェンスをどのように活用すべきか？  地震工学委員会	座長 川島一彦 東京工業大学 話題提供者 梶原浩一 (独)防災科学技術研究所 連上茂樹 (独)土木研究所 堀 宗朗 東京大学 目黒公郎 東京大学
【研09】 9月10日(水) 16:10-18:10  CS-2会場 B202	大都市の国際競争力向上のための基盤整備  地盤工学委員会	座長 東畑郁生 東京大学 話題提供者 黒田勝彦 神戸大学名誉教授 吉兼秀典 首都高速道路(株) 今村 聡 大成建設(株) 木村拓郎 社会安全研究所
【研10】 9月10日(水) 16:10-18:10  CS-3会場 B203	ダイバーシティマネジメントを土木業界からはじめよう！  教育企画・人材育成委員会 男女共同参画小委員会	座長 松本香澄 東京都 話題提供者 雨宮弘子 東京電力(株)ダイバーシティ推進室長 米山 賢 (株)建設技術研究所 栢原英郎 土木学会会長
【研11】 9月10日(水) 16:10-18:10  CS-4会場 B204	パーソナリティX；世界で活躍する技術者たちの「技」と「義」  コンサルタント委員会	座長 田中 弘 日本工営(株) 話題提供者 佐藤正則 エッセイスト 岡部真佳 山梨大学 大谷仁美 東京大学 瀧田陽平 (株)建設技術研究所 播磨 進 (株)ニュージェック
【研12】 9月11日(木) 12:40-14:40  研-A会場 A200	新潟県被害中越沖地震被害の現状と今後の課題  社会支援部門	座長 三輪滋 飛鳥建設(株) 話題提供者 平田 直 東京大学地震研究所 後藤浩之 京都大学防災研究所 尾上篤生 長岡工業高等専門学校 橋本隆雄 (株)千代田コンサルタント 宮島昌克 金沢大学 後藤洋三 富士常葉大学 酒井俊朗 東京電力(株)新潟県中越沖地震対策センター
【研13】 9月11日(木) 12:40-14:40  研-B会場 B200	インフラ国勢調査2007 ～体力測定と健康診断～  平成19年度会長提言特別委員会インフラ国勢調査部会 土木計画学研究委員会 建設マネジメント委員会	座長 太田和博 専修大学 話題提供者 石井弓夫 (株)建設技術研究所 西川和廣 国土技術政策総合研究所 花岡伸也 東京工業大学 外部有識者 (予定)
	市民にとって良いインフラを整備するには、幅広い分野の高度な技術が要求される。しかし、社会資本の整備と管理に携わる技術者は減る方向にあり、インフラへの投資も先細りの状況にある。そうした中で、土木技術者は、インフラの計画・設計・施工・維持のすべての段階において利用者である市民および社会と有機的なつながりをもって、質の高い構造物を造り、維持し、活用する気構えが必要である。本研究討論会では、市民にとって良いインフラ(コンクリート構造物)とは何か、それを支えるインフラマネジメントはどうあるべきか、技術者のあるべき姿は何か、そこで土木学会は何をなすべきか、について議論する。	
	世界最強の振動台Eディフェンス((独)防災科学技術研究所)を用いた橋梁の耐震性に関する研究プロジェクトが平成19年度からスタートしました。平成19年度には、兵庫県南部地震で激甚な被害を受けた1970年代のRC橋脚の耐震性が検討されましたが、今後、順次、各種の橋脚、橋梁の耐震性が検討される予定になっています。Eディフェンスの特徴は、実大規模の模型を用いて次の地震を待たなくても構造物の耐震性評価が可能になる点にあります。土木部門としては、橋梁の耐震性に関する研究を皮切りに、今後、各種の土木構造物に対する研究が進められることが期待されます。本研究討論会では、Eディフェンスを用いた橋梁実験から得られた知見は何か、今後の土木構造物の耐震技術の信頼性向上に向けてどのような研究を実施すべきかについて議論する予定です。	
	我が国の国土整備のあり方を巡っては、さまざまな議論が沸騰している。しかしいずれの立場を探るにせよ、我が国の未来の世代の幸福につながるものでなくては無価値である。我が国の存在の前提として、エネルギーと食糧を輸入できるだけの財力を維持することが必要である。本討論会では、必要物資の輸入のための資金を海外から得る一つの重要な道筋としての大都市に着目し、その国際競争力を維持・発展させるための手段としての交通体系、文化施設、行政のあり方(透明性とスピード)、住環境、あるいは魅力を減退させかねない因子としての自然災害や税などを取り上げ、国家経営の観点からあるべき将来像を議論する。	
	ダイバーシティとは、「外見上の違いや内面的な違いにかかわらず、全ての人が各自の持っている力をフルに発揮して組織に貢献できるような環境をつくること」である。これらを企業の経営戦略として位置づけること(ダイバーシティマネジメント)が、個人のみならず、組織にとっても大きなプラスになるとされており、経営の面からも非常に関心が高まっている。また、土木学会では、5月に定めた「JSCE2010」の中で、男女共同参画も含めた多様な人材の参画を、はじめて重要課題として位置づけ、土木界における、多様な人材の価値観や視点を踏まえた取組みが一段と重要性を増しているところである。本討論会では、(1)他業界におけるダイバーシティへの取り組みの紹介、(2)平成19年度に小委員会を実施した「土木学会法人会員アンケート調査」の結果報告を行った後、土木学会会長を迎え、土木業界において「ダイバーシティマネジメント」をいかに定着させていくか、その方策や手段等について、また、土木学会の果たすべき役割等について、参加者と共に討議する機会とする。	
	コンサルタント委員会では、わが国の国際競争力の向上につなげる人材育成の観点から、わが国の将来を担う若手技術者を対象とした「世界で活躍する技術者たちとの懇話会「夢」」を7回開催するとともに、7人の士(さむらい)を紹介した冊子「国づくりのコンシエルジュ」を刊行した。この研究討論会では、世界で活躍する技術者の人間力(「技」と「義」)について学生および若手技術者とともに熱く語るとともに、国際社会で活躍するための課題を整理する。これらを通して世界に羽ばたこうとする若手技術者へ夢と希望をあたえる討論会としたい。冊子「国づくりのコンシエルジュ」は当日会場でも販売する予定である。	
	2007年7月16日10時13分頃、新潟県上中越沖の深さ約17kmを震源とするマグニチュード(M)6.8(暫定値)、最大震度6強の新潟県被害中越沖地震が発生しました。この地震により、多数の死傷者が出る等、人命と資産に対する被害の報道がなされています。この地震により、柏崎市や刈羽村での家屋被害に加えて、青海川駅裏の斜面崩壊、柏崎市での河川堤防の液状化および流動、北陸自動車道の段差などの地盤災害やクリーンセンターの煙突の破壊、原子力発電所の被害など社会基盤システムの施設被害や機能被害が生じ、未だに復旧の目途が立っていないものもあります。以上の課題を踏まえ、本討論会では、新潟県中越沖地震から一年以上経過した時点で、被害状況とその後の復旧・復興状況を報告するとともに、それらの被害原因の究明などから今後の課題を討議する。	
	日本の成長はインフラの支えによって実現したが、整備水準には地域格差が存在し、そのニーズも変化している。老朽化も進み、昨年ミネアポリスで発生した橋梁の崩落事故と同様の事故が日本で起こる可能性もある。さらにここ数年、地震や風水害が各地で大きな被害をもたらしている。しかし、公共投資は1998年をピークに減少し続けている。国民がインフラ整備に対して正しく理解するためには、科学的・技術的な観点から公正にインフラの現況及び必要とされる水準の充足状況を明らかにすることが求められる。本討論会では、昨年度会長提言特別委員会として実施された「インフラ国勢調査」に基づき、委員会の成果や今後の課題について討論する。	

日時/会場	題目	座長および話題提供者
【研14】 9月11日(木) 12:40-14:40  研-C会場 C200	<b>先輩に聞く - 環境工学の将来</b> 環境工学委員会	座長 渡辺義公 北海道大学 話題提供者 眞柄泰基 北海道大学 野池達也 日本大学
【研15】 9月11日(木) 12:40-14:40  II-1会場 B101	<b>我が国の橋梁の維持・管理を考える - その現状分析と将来展望 -</b> 構造工学委員会	座長 古田 均 関西大学 話題提供者 玉越隆史 国土技術政策総合研究所 川村宏行 青森県 北田俊行 大阪市立大学 宮本文穂 山口大学 牛島 栄 (株)ディーネットジャパン コーディネータ 睦好宏史 埼玉大学
【研16】 9月11日(木) 12:40-14:40  II-2会場 B102	<b>これからの社会基盤整備と維持管理への対応 技術・自動化技術の活用をめざして</b> 建設用ロボット委員会	座長 神崎 正 香川大学 話題提供者 真下英人 (独)土木研究所 城間博通 (株)高速道路総合技術研究所 伊東昇 首都高速道路(株) 小西真治 (財)鉄道総合技術研究所 高橋聡 東京地下鉄(株) 飯田敬昭 日本電信電話(株) 亀村勝美 大成建設(株)
【研17】 9月11日(木) 12:40-14:40  II-3会場 B103	<b>これからの土木史研究に向けて</b> 土木史研究委員会、土木史フォーラム編集小委員会	座長 天野 光一 日本大学 話題提供者 五十畑弘 日本大学 知野泰明 (財)鉄道総合技術研究所 小野田滋 野蒜築港ファンクラブ 松川清子 日本大学
【研18】 9月11日(木) 12:40-14:40  II-4会場 B104	<b>技術教育における映像メディアの効果</b> 土木技術映像委員会	座長 大野春雄 建設教育研究推進機構理事長 話題提供者 安河内孝 清水建設(株) 松本 茂 国土交通省 米島賢二 東京地下鉄(株) 姫野賢治 中央大学 我孫子善昭 (財)全国建設研修センター 米島慎一 (株)NHK情報ネットワーク
【研19】 9月11日(木) 12:40-14:40  CS-1会場 B201	<b>豊かで活力ある地域・都市づくりのための地下空間への期待 ~ これからの地下空間に求められるものとは ~</b> 地下空間研究委員会	座長 大西有三 京都大学 話題提供者 松下 潤 芝浦工業大学 戸田圭一 京都大学防災研究所 和氣典二 中京大学 大塚正博 東京電力(株)
【研20】 9月11日(木) 12:40-14:40	<b>身近になった3次元デジタルコンテンツ基盤 進む土木への応用</b> 情報利用技術委員会	座長 宮田 卓 東京電力(株) 話題提供者 小松 淳 日本工営(株) 佐藤 郁 戸田建設(株) 深見じゅん ジェイアール東日本コンサルタンツ(株) ほか

環境工学は幅広い分野から成り立っており、著名な研究者の方々はそれぞれが独自の工夫と努力によって最先端を極められ、若い研究者には学ぶべき点が多々ある。本企画では、長年にわたって第一線で研究を続けてこられた著名な先生をお招きし、環境工学分野での研究に対する取り組み、考え方、将来への展望、若い研究者に望むこと等を話して頂く。また、講演後、会場の参加者と「環境工学分野の将来像」について意見交換を行う。

最近、海外において経年劣化した橋梁の崩落事故が相次いで起こっている。例えば、2006年9月に、カナダのモンリオール市近郊で、高速道路を跨ぐ道路橋(コンクリートゲルバー橋)が崩落し、5人が死亡した。また昨年の8月には、米国ミネソタ州ミネアポリス市郊外でミシシッピ川に架かる高速道路橋(鋼トラス橋)が落橋し、13名の犠牲者が出たことは記憶に新しい。我が国には橋長15m以上の道路橋が146,000橋(高速道路及び直轄国道:1.8万橋、県管轄:4.4万橋、市町村管轄:8.4万橋)あり、橋梁の高齢化が進んでおり、今後社会的な問題に発展する可能性がある。最近我が国においても、鋼トラス橋や鋼桁橋において亀裂が発見されたり、海岸近傍におけるコンクリート橋の塩害などが大きな問題となっている。経年劣化した橋を如何に維持・管理して、安全にできるだけ長く使っていくかが喫緊の課題である。このようなことから、国土交通省、高速道路会社、JRさらにはいくつかの都道府県において橋梁資産の維持管理システムが開発され適用されている。本研究討論会は、橋梁の維持・管理システムの現状と問題点を紹介するとともに、今後のあり方について、鋼分野とコンクリート分野の専門家を交えて討論するものである。

わが国の社会基盤は、文字通り社会活動を支える基盤として機能し、その物量は極めて膨大である。しかしながら、欧米の先進国と比較したとき、質・量ともにその水準は必ずしも満足するものではない。これからの社会基盤は、まずこうした豊かさを実感できる整備が望まれる。また同時に、老朽化した社会基盤の維持管理への対応も必要である。本討論会では、この膨大なニーズについて地下構造物を始めとする各分野の現状を明らかにし、その効率的な遂行に際しての情報通信技術や自動化・ロボット化技術の利用について、各事業者から話題提供いただき、今後の施設の建設・運用・維持管理に関する共通の展望を探ってみたい。

土木史研究委員会は、研究発表会の開催やニュースレター「土木史フォーラム」の発行など、土木史研究の発展や研究の裾野の拡大に努めてきた。しかし、近年、文化財としての保護や地域資源としてのまちづくりにおける活用など、土木遺産に対する関心が高まる一方で、なんら保全の措置が講じられないまま、取り壊されていく土木遺産も少なくない。これまでの取組の蓄積を踏まえ、今後、いかにして研究者、技術者、さらに地域の人々を結び、土木遺産の保全や土木史研究の発展を導いていくのか? 本研究討論会では、土木史教育の現場や活動の現場における課題、土木史研究に対する市民等の期待、さらに土木遺産の保全に向けた技術開発など、多様な視点から意見交換を行い、これからの土木史研究の意義や今後の展開について討論したい。土木史に興味のある、あるいはこれから土木史研究に取り組もうとしている学生・研究者らの幅広い参加を期待したい。

土木に関する映像作品は様々な動機・目的から作られており、それ自身多様な価値を有するが、これらを分野(河川、道路、橋梁、ダム、トンネル等)、対象者(土木技術者・土木関係者、土木系学生、小・中学生、一般社会人)及び専門性の度合い(工事記録・技術紹介等専門性の高いものから、土木一般・啓蒙・教育など一般的な内容のものまで)などの切り口で分類することができる。土木技術映像委員会では、映像作品の調査・収集、データベース化、普及・活用、一般公開といった活動を進めてきている。前回は「土木映画と土木教育のコラボレーション - 土木技術映像の教育場面への活用を考える -」をテーマに研究討論会を実施した。今回は引き続き具体的な現場における技術教育に着目し、これまでの活動により蓄えられてきた映像作品の中からいくつかを取り上げ、当該工事あるいはプロジェクトに携わった技術者あるいは作品制作の担当者などをパネリストに招き、上記分類の視点から技術教育における映像メディアの効果について発表していただき意見交換を行う。

近年、都市における地下空間を利用した施設整備が大きく進展している。特に、地下鉄や地下街・地下歩道に加え、首都高中央環状新宿線の開通に見られるような地下自動車道の整備など、地下空間は人間の活動空間として広がりをを見せている。また、我が国の地下鉄開業以来80年、我々が日常生活している地下施設のストックがある。このように地下は都市活動において不可欠な空間となっている。地球環境問題や高齢化の進展など、我々を取り巻く喫緊の課題が山積する中、都市における課題の解決に向けて、貴重な空間である地下を如何に利用すべきか、先輩方が残された地下施設を次代にも如何に活用すべきか、年次大会参加の皆様と議論を深めたいと思う。

日時/会場	題目	座長および話題提供者
CS-2会場 B202		<p>3次元情報のデジタル化は、一部の高度エンジニアリング分野から始まった。しかし、近年の高速インターネットの普及、情報機器の高性能化、ビデオゲームの高度化、Web技術の飛躍的な進歩を背景として、3次元デジタルコンテンツが生活空間の中に浸透しつつあり、もはや3次元技術はエンジニアだけのものではない。土木分野においても、設計・施工等に3次元手法を導入する従来の動きに加え、Google EarthやSecond Lifeといった新しい3次元デジタルコンテンツ基盤を活用して、事業用施設管理システムの開発や一般市民との接点構築の取り組みが行われている。また、地理空間情報活用推進基本法(NDSI法)の施行により、現実世界を3次元デジタルコンテンツ基盤と結びつける動きも活発になってきた。ここでは、3次元デジタルコンテンツ基盤の最新動向と土木分野での先進応用事例を紹介しながら、これらの活用で今後の土木はどう変わるか、そのために準備すべきことは何かを議論する。</p>

日時/会場	題 目	座長および話題提供者
【研21】 9月11日(木) 12:40-14:40  CS-3会場 B203	<b>木材を活かした国づくりまちづくり            - 土木技術ができる地球温暖化対策 -</b>  建設技術研究委員会 間伐材の利活用技術研究小委員会 鋼構造委員会 木橋の高度化技術研究小委員会	座長 佐々木貴信 秋田県立大学 話題提供者 沼田淳紀 飛鳥建設(株) 渡辺 浩 福岡大学 今井 久 (株)間組
【研22】 9月11日(木) 12:40-14:40  CS-4会場 B204	<b>活褶曲地帯の地震災害と復興の膨大な記録から得る教訓            高ひずみ速度帯で発生した中越地震・中越沖地震が残したデータ</b>  技術推進機構	座長 小長井一男 東京大学 話題提供者 澤田純男 京都大学 國生剛治 中央大学 古閑潤一 東京大学 前川宏一 東京大学 濱田政則 早稲田大学 高橋良和 京都大学 大塚悟 長岡技術科学大学
【研23】 国際関連行事  9月12日(水) 16:40-18:10  INT-1会場 マルチメディア棟 6F大ホール	<b>留学生への期待と支援</b>  国際委員会	座長 神山 真 東北工業大学 話題提供者 ジャウサン・ジャル (株)建設技術研究所 スハスリ・アナワット 東北大学大学院D1 北浦 勝 金沢大学 福田 敦 日本大学 葛 漢彬 名城大学
	わが国の少子・高齢化の中で、留学生のわが国の発展への貢献を期待する声も高まっている。また、留学生教育に熱心な大学院も増えている。土木学会でも、国際活動の一環として留学生を対象とした国際サマースイムを学術交流基金の助成を受け1999年度から毎年開催し、日本に滞在中の留学生・エンジニアを中心に、国際交流と相互理解を深めてきた。今年がサマースイムの10回目を迎えることから、この機に、国内および国際的な場において留学生に期待すること、留学生支援のあり方などについて、わが国への留学経験者、現役留学生、実際に留学生支援活動に携わっている方々に話題提供していただき議論を深めたい。	